

【評価実施概要】

事業所番号	3770300279
法人名	社会福祉法人 敬世会
事業所名	グループホームやすらぎの家きやま
所在地	香川県坂出市川津町2001番地1 (電話) 0877-45-1611

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号
訪問調査日	平成19年5月11日

【情報提供票より】 (2007年5月2日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成12年2月1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	16人	常勤14人、非常勤2人、常勤換算13人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	1階建ての～1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,074円	その他の経費(月額)	電気1点30円 日常生活費150円	×日数円
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	400円	昼食	550円
	夕食	550円	おやつ	100円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(5月1日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	2	要介護2	6		
要介護3	2	要介護4	7		
要介護5	1	要支援2	0		
年齢	平均 86.3歳	最低	74歳	最高	99歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	永井整形外科・坂出市立病院・大塚歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

山間に統合された高齢者施設の一つとして建物が位置づけられており、県下でも認知症高齢者のケアに対して、先駆的な取り組みを行っている。法人全体もグループホームの概念等を十分理解し、職員も認知症高齢者のケアを熱意をもって取り組んでおり、質の高いサービスを提供している。また、研修体系も段階に応じて行う等、全ての環境が整えられているが、逆に一人ひとり、または、ユニットごとの独自性と自発性が少し乏しいと思われるので、利用者と職員、一人ひとりからなるグループホーム(=いわゆる家庭的)の発信元(利用者と職員との関係)となるよう期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	管理者や職員は、外部評価での具体的な改善に取り組んでおり、前々回の改善項目である、同一法人内におけるデイサービスの利用に対する対策を講じている。昨年はデイサービス利用なし、今年は数名の利用と以前より少ないが、現在も利用している入居者がいるので、再度、利用者一人ひとりのケアプランに対して、自発性や自己決定を考慮したサービスの検討が望まれる。また、料理は利用者との協働作業として常々考えられている。法人全体(特別養護老人ホーム・ケアハウス等)で考えた利用者選別から脱却し、グループホーム独自の方針が出てきており、ターミナルケアの導入はその表れと思われる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	当グループホームは「峠の家」と「やすらぎの家」の2ユニットあるが、グループホーム全体として自己評価を作成している。ユニットごとの独自性と取り組みは、質の高いものであると考えられ、住空間や職員、利用者が全て違うこともあり、ユニットごとから生じた「家庭的」な概念を重要視し、次回は、ユニットごとの内容で自己評価を作成するよう検討が望まれる。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	地域の高齢者の暮らしに役立つよう、進んでグループホームに対する見学の受入れを行っている。年4回のホーム便りで、定期的に運営委員会の討議を参考にし、家族や地域等に通知している。また、運営推進会議は2か月に1回開催し、地域住民等の参加のもと、グループホームのサービス向上に活かしており、討議内容は、グループホームのサービス向上に対する要望や地域行事等の情報収集があげられる。今後は、ホーム単独のサービス向上のみでなく、地域のニーズも考えた運営推進会議となるよう、地域のボランティアや地域行事等の情報を収集し、地域住民のニーズをあげた会議を行い、その議事録を地域包括支援センターを通して行政へ伝え、また、行政から回答を得たことを運営推進会議で報告する等の取り組みに期待したい。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	グループホームの職員異動や活動報告は、年4回のホーム便りで定期的に家族に通知しており、利用者の健康状態については、家族等の面会時や電話で密に連絡を取り合う等、可能な限り、連絡を取ることで不安の解消を考えている。また、玄関に苦情箱を設置しているが、今までに苦情という苦情はない。苦情については、法人で第三者委員を設け、委託している。家族の意見の反映については、家族会でのさりげない会話の中で意見を傾聴し、サービス向上に繋げている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	年4回のグループ通信は、個人情報保護法を考え、家族や公民館、協力病院、コミュニティホールに設置し、家族や地域の方に理解を得よう取り組んでいる。また、地域の一員として、行事等に参加したり、地域活動の交流に努めており、六地藏盆供養への招待参加、水路掃除や草刈、地区社会福祉協議会での打ち込みうどん参加、クリスマスギターコンサート参加等がある。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームの意義を職員全員で確認しているが、理念の文言が地域との関係性に乏しく、少し表現がかたいように思われる。職員間で話し合い、生まれた理念が望ましいと思われ、初めての人でも分かりやすい理念の検討が望まれる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	グループホーム独自の年間の長期・短期目標をたて、日々努力している。今年に入り、5分間カンファレンスを実施している。また、各職員の名札の裏に理念を記載し、常に理念の共有を心がけている。しかし、理念、契約、重要事項の掲示については、ユニット峠の家きやまでは玄関内正面に掲示されているが、ユニットやすらぎの家きやまは、来訪者には少し見えにくい場所に掲示している。	○	5分間カンファレンスが定着し、その努力目標の成果を期待したい。ユニットやすらぎの家きやまの、理念、契約、重要事項説明書の掲示について、検討が望まれる。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	年4回のグループ通信は、個人情報保護法を考え、家族や公民館、協力病院、コミュニティホールに設置し、家族や地域の方に理解を得よう取り組んでいる。また、六地藏盆供養への招待参加、水路掃除や草刈、地区社会福祉協議会での打ち込みうどん参加、クリスマスギターコンサート参加等があるが、以前は、頻繁に地域の方とグループホームとの交流があったが、最近になり途絶えている。	○	以前は、地域の方とグループホームとの交流が頻繁であったが、最近になり途絶えているので、地域へ参加すると同様に、グループホームへ参加してもらうような企画に期待したい。
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者や職員は、自己評価及び外部評価で具体的な改善に取り組んでおり、前々回の改善事項である同一法人内におけるデイサービスの利用に対する対策を講じている。以前よりは少ないが、現在も数名の方は利用している。グループホーム全体として、デイサービスを利用するのではなく、利用者一人ひとりのケアプランに対して、多岐に渡る選択肢の中でどのように位置づけるのかを検討して欲しい。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催し、グループホームのサービス向上に活かしている。ホーム単独のサービス向上のみでなく、地域のニーズを考えた運営推進会議が必要であると思われる。	○	運営推進会議では、地域のボランティアや地域行事等の情報を収集し、地域住民のニーズをあげた会議を行い、その議事録を地域包括支援センターを通して行政へ伝え、また、行政から回答を得たことを運営推進会議で報告する等の取り組みに期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外に疑問点があれば、市町担当者に質問や相談を行い、サービス向上に取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の小遣いの管理は家族から金銭を預かり、小遣い帳を利用して出納を家族等に明らかにしている。職員の異動等は、年4回のホーム便りで定期的に家族に通知しており、利用者の健康状態については、家族等の面会時や電話で密に連絡を取り合っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情箱を設置しているが、今までに苦情という苦情はない。苦情については、法人で第三者委員を設け委託している。家族の意見の反映については、家族会でのさりげない会話の中で意見を傾聴し、サービス向上に繋げている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人として職員の受入れと異動を考えている。利用者にならない支援が提供できるように、認知症介護の経験を考慮し、グループホームの職員の異動について配慮している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人教育を含めて、職員育成については、月1回のスーパーバイズの研修を受ける機会を確保している。指導者から認知症介護等の助言を受けたり、グループ内での研究発表会を企画している。また、法人内で職員育成の年間計画を立案し、グループ内外の研修参加を推奨している。特に、段階的な認知症介護実践研修の受講を計画している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動に取り組んでいる。香川県グループホーム協会に加入し、研修を受けたり、研修場所も提供している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者本人が安心して納得できるように、グループホーム利用開始前に何回かホームを見学し、馴染んでもらっている。サービス利用の主体は利用者本人と理解して、工夫をしながらサービス開始となるよう取り組んでいる。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理や畑作り等を一緒に行う等、利用者一人ひとりが人生の先輩であるという考え方を職員は理解し、利用者と共に学び支えあう関係づくりを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の毎日の行動や表情から、思いや意向を把握しており、孫の結婚やひ孫の誕生を通して、若い頃の育児の苦労等を聞くことによって、利用者自身の人生を謳歌できるよう努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回ユニット合同ミーティングを行ったり、随時ユニットごとにミーティングを行い、意見等を出しあって介護計画に反映している。また、日勤帯同士で5分間カンファレンスを行い、利用者の気づきを記録している。利用者本人のより良い生活、暮らし方ができるように介護計画が立て、実践している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3か月に1回、定期的に見直しを行っており、利用者一人ひとりの状態に応じて、随時見直しを行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者本人や家族の要望に応じて、外出・外泊・泊まり等を支援している。また、家族が同じ部屋に泊まれるよう柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者本人及び家族の希望に沿っている。協力医療機関から火曜日と金曜日に、訪問診療等を定期に受けており、協力病院とはスムーズに連携が取れている。専門医との受診体制も整っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族やかかりつけ医と繰り返し話し合い、職員間でも協議し、重度化や終末期に対する方針を決め、職員全員が共有できている。昨年、実際にターミナルケアがあり、夜間等の体制等、十分協議を行った経過がある。また、グループホームとして見取りの指針がある。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねるような言葉かけや対応は行っていない。利用者の部屋へ職員が入室する際も、対応を考え入室している。ホーム便り等の記録等は、個人情報に注意し、利用目的が生じる場合には、利用者本人及び家族に同意を求めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者が自分のペースを保ちながら暮らせるように配慮しており、食事も一人ひとりのペースで食事を進めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりのできることを考え、役割をもってもらい、利用者と職員が協働で料理、食事、片付けを行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間や入浴回数等は、利用者本人の希望に沿っているが、主に日中入浴を行っている。一人で入浴する場合や友達同士で入浴する場合など、入浴を楽しめることができる支援を常々考えている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	最初の利用時に、家族が記入した生活歴やその後の利用者及び家族の会話の中で情報を得て、その人らしい喜びのある日々が過ごせるように支援している。うれしかった時、頑張った時の自分を見つけて、張りのある生活ができるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者一人ひとりの身体的状況と希望に沿って、戸外に出かけるように支援している。買い物に出かけたり、散歩をする等の支援をしている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関に鍵をかけないで見守る方法をとっており、玄関の感知センサーで、出入りについては注意を施している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災、避難訓練の具体的な実施により、災害対策を常に念頭において対応している。防火訓練の実施、防火管理者研修への参加を行うなど、昼夜問わず利用者が避難できる方法を身につけている。利用者の部屋に避難したかどうかの赤・黄ラベルを記す方法を取っており、4月26日の地震発生後には、具体的なカンファレンスの点検や通達等の地震災害対策訓練を実施した。また、地域の協力が得られるように働きかけを行っている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取や水分確保については、個人フローシートを利用し、利用者一人ひとりの状態を把握して、習慣に応じた支援をしている。朝起きて、必ずお茶を飲まれる方がいれば、確認しながら支援している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間が数か所あり、窓が広く山や畑が見えるため、利用者は生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫となっている。特に、庭では、アウトドア用の長いすやテーブル、パラソルがあり、天気の良い日は利用者や職員が、協働でレクリエーションや食事等を行っている。非常に心地よい雰囲気を提供している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の部屋は、タンスや椅子等、馴染みの物を持参し、使い慣れた好みの物が置かれている。また、本人や家族と相談しながら、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。